令和６年６月２５日
東京海上保安部

埼玉県の皆さんへ

これから夏休みに入ると、海に行く機会が増えるかもしれません。
下記に紹介する事例や安全対策を確認してから海へ行き、安全にマリンレジャーを楽しんでください！

事故者（埼玉県在住、高校生）は、友人とともに夏休みに千葉県の海岸を訪れた。（**海水浴場の開設なし**）友人と３名で腰から胸程度の深さの場所で遊んでいたが、事故者が溺れているところを友人が発見し、助けようとしたが肩を捕まれ自身も溺れそうになったので海岸へ戻り周囲の者に助けを求め、通報してもらったがその間に事故者を見失った。船・航空機により捜索が行われたが、２日後に消波ブロックに挟まっているところを発見された。（死亡事故）

▲事故の原因▲

☑**救命胴衣を着用していなかった**　☑**連絡手段を確保していなかった**

事故を防ぐためには

◎海で遊ぶ前に天気予報をチェックし**よく晴れた風の穏やかな日**に遊びましょう！

◎海で遊ぶ時は**サイズの合った救命胴衣**を正しく着用しましょう！

◎海で遊ぶ時は**子供から絶対に目を離さない様にしましょう！**

海の事件・事故は「118番」!!!

←「Water Safety Guide」
海で安全に遊ぶための総合情報サイトです！要チェック！

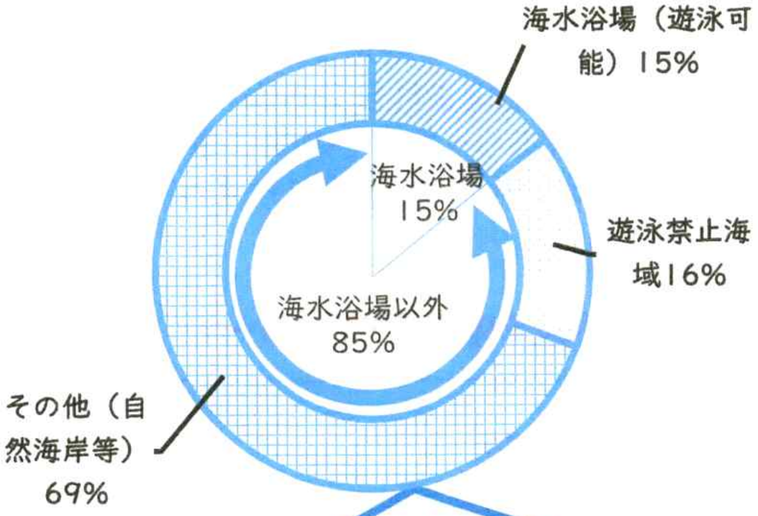
事故発生状況は次へ！

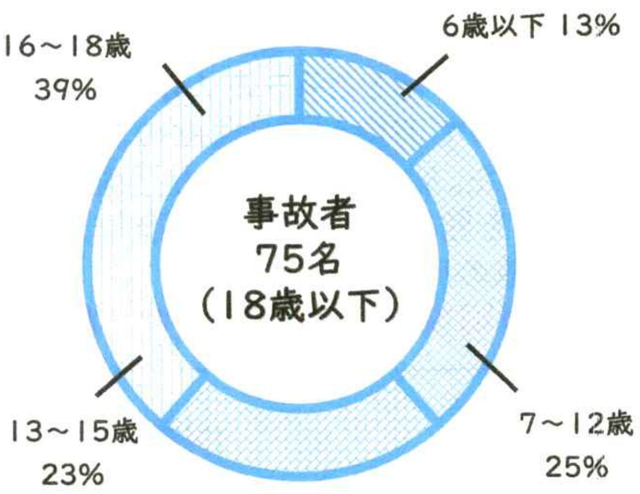
令和６年６月２５日
東京海上保安部

海の事故に注意

関東海域（茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県）の海浜では、遊泳中の事故が多発しており、その多くは**夏休み期間中に発生しています!!**

過去5年間(2019年～2023年)における18歳以下の事故者は75名で、そのうち13名（15%）の方が亡くなっています。





【海浜事故の８５%は海水浴場以外で発生しています！】

○若年齢層（18歳以下）による海浜事故の分析

発生状況：**約75%が夏休み期間に発生**（内訳：7月6名、8月50名）
発生場所：約85%が海水浴場以外の場所で発生（遊泳禁止期間中の海水浴場を含む。）
主な原因：漂流33名（約44%）、波に引き込まれる26名（約34%）、深みにはまる4名（約5%）
※ 事故の48%は、天気の悪い日（強風・波浪の注意報・警報発令中）に発生しました。

事故に遭わないために・・・

事故発生要因の52%は離岸流によるものです。

監視員がいる海水浴場で泳ぎましょう。

理由１）海水浴場は、ライフセーバー等の監視が行き届いており、万が一の時の救助体制が整っています。そのため、早期に事故が発見され、迅速な救助が実施されます。

理由２）海水浴場は、安全に遊泳することができる遊泳区域がブイで定められています。

波が高い日は、泳いではいけません。

高い波や強い風の影響で、溺れたり沖合いに流される危険性が高くなります。

離岸流については
次へ！

令和６年６月２５日
東京海上保安部

離岸流に注意しましょう！

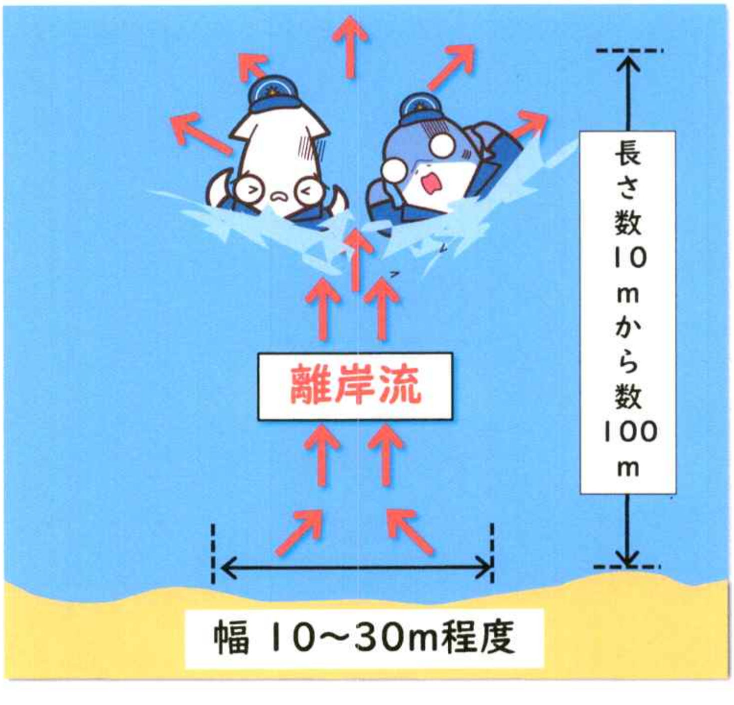
○海水浴場や海岸付近では、岸から沖に向かう流れが発生することがあり、これを「離岸流」と呼んでいます。「離岸流」に遭うと水際で泳いでいる人があっという間に流されてしまうことがあり、大変危険です。実際に離岸流による死亡事故も発生しています。

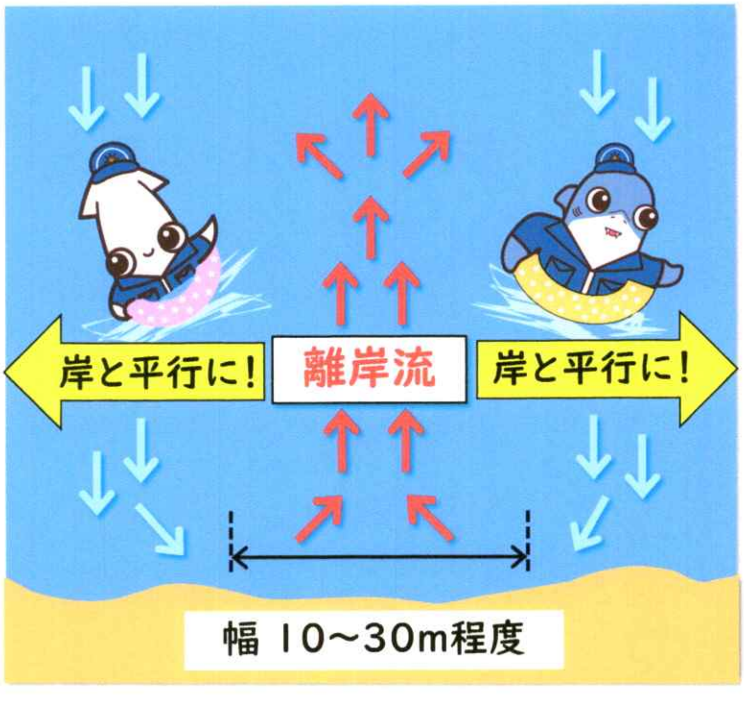
----------------離岸流による事故事例（死亡事故）----------------

事故者(中学生)は友人３名と４名で海水浴場の腰がつかる深さで遊泳していたが、離岸流により事故者と友人１名が次第に流されていった。友人は砂浜に打ち上げられたが、事故者は帰還できず、翌日他の海水浴場に打ち上げられているのを発見された。発見時にはすでに心肺停止であった。

★離岸流に遭った時には．．．

1. まずは、落ち着く（あわてない）
2. 岸に向かって泳がない
3. 海岸と平行に泳いで脱出する
4. 脱出したら海岸に向かって泳ぐ





「離岸流」の速さは毎秒2mに達する場合（オリンピックの水泳自由形金メダリストが泳ぐ速さ！）もあり、海岸であればどこでも発生する可能性があります！